

親日国と向き合う際の 一般原則

株式会社せおん 代表取締役
株式会社テイク・グッド・ケア 代表取締役

越 純一郎



親日国は、日本の重要なアセットであり、自覚と責任感をもって向き合う必要がある。

① 何よりも「知る努力、知らせる努力」を

親日国に関する日本人一般の認識の低さは、憂慮すべき状況にある。相手国にとって非常に重要な日本との歴史を、**日本側が全く知らない**という、ゆゆしき事態は多く見られ、場合により次のような**深刻な問題**となっている。

- (1) 相手国との**公式的な場**など、重要な場面で、失礼な、相手がシラける対応をしてしまう。
- (2) 親日国の、日本への信頼感/親近感が次第に冷め、日本が**ファンを失う**。

甚だ残念なことに、外務省や大手商社等の国際人の方々でも、「(親日国に)赴任して初めて知った」「着任して驚いた」と発言されることは珍しくない。

実態を知って頂くため、下記の例をご覧頂きたい。これらを知らない日本人の何と多いことか。

1. ポーランド

☆1920年、シベリアに流刑されていたポーランド人は15～20万人。救出要請を受けた日本は、ポーランド人孤児765人を救出し、日本での療養後、ポーランドに送り届けた。(シベリア孤児救出)

☆ポーランドの**ワレサ**第2代大統領は、就任演説で、「私は、**ポーランドを“第二の日本”**にする」と述べ、国民はそれに喝采した。

2. インドネシア

☆インドネシア**独立宣言**では、独立記念日(8月17日)の年号を、**日本の年号で刻んだ**。4年半の**独立戦争を共に戦った数千人の日本将兵**は、現在も、同国各地の英雄墓地に眠る。

☆日本の軍政下で構築された教育システム、軍事組織、行政機構が、独立後の国作りを支えたことを、現在も**歴史教科書で丁寧に教えている**。

3. 台湾

☆台湾では、「**日本精神**(りっぶんちえんしん)」が、最高のほめ言葉。それは、「約束を守る、礼節、誠実、清潔、勤勉、責任感、規律正しい」等の意味。

☆台湾で神として祀られている、**ゼロ戦搭乗員**や**日本人警察官**がいる。

☆台南を一大穀倉地帯に変えた**烏山頭(うさんと)**ダム設計、工事を指導した**八田與一**の功労を、台湾では歴史教科書で詳しく教えている。

4. ベルギー

☆ベルギー王室と日本の皇室は、他に例のない親密な関係。それには様々な歴史的理由がある。

☆一例を挙げると、ベルギーは**関東大震災**の際に、「**日本の日**」を定め、国をあげて日本支援のための募金活動を行ってくれた。

5. トルコ

☆1985年3月、イラクによる攻撃予告のため、JALも自衛隊機も来ない**テヘラン**に、日本人約300人が取り残された。空襲警報が鳴りやまぬ空港に、突如、飛来した**トルコ航空機**が、全員を救出した。

☆イランにいたトルコ人たちは、陸路で祖国に帰還したが、トルコ世論は、トルコ航空と**オザル大統領**の英断を讃えた。

これら以外にも、ベトナム、マレーシア、タイ、インド、パラオ、イラン、フィンランド等では、「相手国にとっては大切なのに、日本人が然るべく認識していない」重要な事項がある。日本ではこれらを学校やメディアで知る機会が少ない。

② 基本的な資料の在処を知る

日本人の親日国に関する無知は、**適切な情報源や資料**にアクセスできれば解決し得る。

問題は、それが「どこにあるか分からない」こと

で、個別に探すしかない。台湾ならば、多数の歴史的事実を一つ一つ収集する。ポーランド、タイなどでは、JETROや留学生団体が、「日本との間の歴史的事項集」を作成している。ベルギーならば、「日本・ベルギー関係史」(磯見・黒沢・櫻井、白水社)という研究書で網羅的情報を得られる。ベトナムについては、梅田邦夫氏(元駐ベトナム大使)の著作/論考によって、網羅的な情報を整理した形で知ることができる。

そうした国ごとの基本的な資料/情報を整理し、誰もが見つけ易い形にできれば、大きな意味があるだろう。

③ 「現代的課題」と結び付けつつ向き合うこと

親日国と向き合う際には、常に相手国と日本との「現代的課題」と結び付けて考えることが重要である。これには、幾つかの類型がある。

A：知る努力、知らせる努力

☆日本側の歴史知識は余りにも貧しいので、それを啓蒙することが必要

☆特に、「相手国にとって重要な日本関係の事項」、「相手国が歴史教科書で丁寧に教えている日本関係の事項」は必ず知っておくべき(ポーランドのシベリア孤児救出、台湾の烏山頭ダムなど)

B：歴史に基く両国関係を大切にす

☆(例)ベルギー王室と日本皇室の関係

☆(例)インドネシアのスティルマン将軍像に対する献花式

C：当該親日国との地政学的関係の理解

☆(例)ベトナム首脳は、中国に対峙する関係から、日越は自然の同盟関係にあると認識している

☆(例)オーストラリアは、同様の意味で、対日観が劇的に好転し得るタイミングを迎えている。

D：その他

☆(例)ブラジルについては、「両国共通の課題に取り組むこと」が現代的課題であると、元外交官から指摘がある。

☆(例)学術交流、ODA、日本語教育等に関する協力などが重要な場合もあろう。

④ 親日観の歴史的理由を知ることが必要

親日国と向き合う上で重要な第二の事項は、「な

ぜ親日的になったのか」を認識することである。これは事の本質に関わる。これにも幾つかの類型がある。

A：日露戦争における日本の圧倒的勝利：日露戦争は、有色人種が初めて白人国家を倒した戦争で、植民地支配下のアジア諸国を歓喜させた。ネルー、ガンジー、孫文、毛沢東なども熱く熱く歓喜した。中国、ベトナムでは「日本に学べ」と、空前の日本留学ブームとなった。また、ロシアの圧政、圧力のもとにあったポーランド、フィンランド、トルコも歓喜に沸いた。多くの親日国では、親日観の根底に日露戦争がある。

B：大東亜戦争によるアジア諸国の独立：インドネシアも、マレーシアも、インドも日本の勇戦の結果、独立を獲得した。スリランカ、タイ、パラオなどでも、親日の根底にこれがある。

C：日本の高度経済成長：アジア諸国首脳は上記(B)とともに、日本の高度成長がアジアの経済発展に寄与し、経済面でもアジア人が白人と同等だと示したことが、日本の最大の貢献だと認識を有している。

D：相手国の国作り、独立、苦難等に関して日本が貢献した歴史：イランの日章丸事件、トルコのエルトゥールル号事件、インドネシア独立戦争、ベトナムのドンズー運動、ポーランドのシベリア孤児救出、第一次世界大戦におけるベルギー、台湾の烏山頭ダムや飛虎将軍。こうした、相手国にとって非常に重要な、日本関係の歴史的事件は、日本も知っておくべきだ。

E：日本人のIntegrity(徳性)：諸国の親日観の根底には、共通して、日本人の徳性がある。「約束を守る、礼節、誠実、清潔、勤勉、責任感、規律正しい」などの徳性こそ、親日観の源泉になっている。(逆に、決して、「上から目線」を持つてはならない。)

日本人の徳性こそ親日観の根源であることは、見過ごされることが多いが、後進にも青少年にも、「親日国の人たちから見られて、恥ずかしくない日本人でなければならない」という教えを伝えるべきである。「知る努力、知らせる努力」とともに。